

株式会社横浜アリーナ

第40期 事業報告

2024年 4月 1日から
2025年 3月31日まで

— 目次 —

- 1) 事業報告
- 2) イベント分野別稼働実績

事業報告

2024年4月 1日から

2025年3月31日まで

株式会社横浜アリーナ

1. 事業の経過および成果

2024年度は、自然災害や円安の加速、物価の高騰など様々な社会情勢の変化がありましたが、安全最優先で行った工事を除けば、精緻なコスト管理により当初の見込みより費用削減することができました。

業界としてはコロナ禍による人材離れや長時間労働是正の影響による交代要員の確保など人材不足は解消しておらず、未熟な人材も増えてきており、安全管理の重要性が増しています。市場規模はコロナ前水準に回復したものの、中核都市に公演が偏る傾向が全国的にみられるようになり、関東圏では新設会場の営業が軌道に乗り始め、平日の受注に影響が出始めています。

この変化に富んだ事業環境の下、コンサート需要は堅調であったこと、及び戦略的かつ能動的なスペースコントロールにより、稼働日数は306日(キャンセル4日を含む)、稼働率は83.8%の受注となりました。そして当期の来場者数は約189万人となり、1989年4月の開業からの来場者数は累計で約5,824万人に達しました。よって横浜市内へのにぎわい創出にも寄与することができました。

また施設の安全安心に向けた取り組みを継続すると同時に、地域貢献事業への取り組みをさらに深め、「大相撲横浜アリーナ場所」の開催では地域向けのチケット販売や地元観光 PR 事業との連携を実施したほか、メインアリーナを利用した合同開催となった「2024ふるさと港北ふれあいまつり」と「秋のヨコアリくんまつり」では運営面での協力を更に強固なものとし、港北区民の皆さまをはじめ多くの方々の来場をいただき、関係者の皆さまにも高い評価を賜りました。

当事業年度においても横浜アリーナの社会的役割を意識して受注活動と地域貢献活動の双方を推進した結果、「地域の皆さまにとっての創造的拠点」として、さらに一歩前進することができました。

経営成績につきましては、受注獲得と通年にわたるメリハリのある支出の結果、売上高が2,612百万円(前期2,568百万円、対前期1.7%増)、売上原価は1,574百万円(前期1,385百万円、対前期13.6%増)、販売費及び一般管理費は382百万円(前期370百万円、対前期3.3%増)となりました。

これらにより当期の損益は、営業利益656百万円(前期営業利益812百万円、対前期19.2%減)を計上し、経常利益が697百万円(前期経常利益832百万円、対前期16.2%減)、当期純利益494百万円(前期当期純利益576百万円、対前期14.1%減)となりました。

前期実績比では増収減益、年初予算との比較では、売上高及び全ての段階利益(営業利益、経常利益、当期純利益)が目標値を上回る数値になりました。

以上

2024年4月～2025年3月 イベント分野別稼働実績

2024年度 実績		ショー コンサート	集会 式典	展示 物販	スポーツ	合計	稼働率 (%)
2024年4月 ～	件数	68	11	2	5	86	83.8%
	日数	236	28	6	36	306	
2025年3月	本番日	136	13	4	17	170	(注)
	構成比	77.1%	9.2%	2.0%	11.8%	100.0%	

(参考)

対前年 同時期 増減数	件数	△ 1	△ 3	0	△ 1	△ 5	稼働率	2022年4月 ～ 2023年3月
	日数	△ 2	△ 11	0	17	4		1.3%
	本番日	5	△ 8	0	6	3		
	構成比	0.6%	6.3%	0.0%	5.5%	0.0%		
2023年4月 ～ 2024年3月	件数	69	14	2	6	91	56.7%	
	日数	238	39	6	19	302		82.5%
	本番日	131	21	4	11	167		
	構成比	78.8%	12.9%	2.0%	6.3%	100.0%		

(注)

※2024年4月～2025年3月までの稼働日数306日について、キャンセル料発生（稼働計上）4日を含んでおります。

※2022年度は期首から7月31日までの4か月は大規模改修工事のため、8月1日以降年度末までが稼働期間になります。